

公浦佐用媛石魂録

初集卷之二

^ 13
3240
2



へ 13
3240
2

金持

高崎

又此中へ忽地引分り。玉嶋小物と名なす。其の形は彼ホ又物の形
 ちね小至りて一人ハ父と兄ハ慕ひ一人ハ母と父ハ慕ひ。はこそ形がくあぶるれ
 宣わりのあふれと。そのみとらけ引かじといふ。健三政次らと持て。つる妻は言
 葉。過す。曩に佐用媛の神。身ハ母ハ養。せよと。託宣のりしを忘れぬ。ひさる
 軟。元木石にのらば。れが。あましく。ひさる。子も。ら。次。いは。道。僧。と。る。ん。ま。を。
 今日。の。ゆ。に。お。ひ。あ。い。さ。れ。ば。一。人。と。乗。よ。と。告。多。い。し。神。意。あ。は。持。が。じ。玉。嶋。も
 三。世。より。定。ね。る。業。因。と。お。ひ。諦。め。て。ゆ。か。く。な。敷。に。そ。ゆ。今。乗。ら。れ。と。い。ふ。も。
 老。人。養。ふ。小。子。の。り。識。人。凌。に。田。園。の。り。寡。は。く。あ。ら。ん。と。も。人。の。業。と。な。り。ん
 とも。ら。の。隨。と。お。ぼ。と。て。理。次。述。く。げ。え。あ。い。す。れ。あ。そ。本。珍。妙。の。口。で。ゆ。い。ふ
 ぶ。た。言。の。ね。く。不。是。も。落。涙。あ。り。け。り。玉。嶋。ハ。情。由。入。は。し。く。と。い。ふ。も。は。あ。ら。ん
 か。と。神。意。あ。は。し。を。宣。ふ。を。か。く。か。ん。ん。の。ゆ。い。ふ。は。是。今。上。の。又。別。と。て

昭和十年
七月九日

大和言

十九

あひ付け。まうりつとも。つがふ。いづて。他は。付け。つぐ。愛子。みより。田園。を。遺し。
あふ。うへ。とも。かく。して。守。育。時。代。行。け。り。ん。親。子。見。ま。の。結。ぶ。神。も。あ。は。れ。
と。入。そ。お。ひ。え。は。は。し。や。影。の。年。の。移。る。とも。環。會。し。も。ふ。ほ。し。健。氣。の。あ。は。れ。
あ。さ。と。と。移。り。た。袖。の。露。消。ぐ。と。と。れ。と。ひ。あり。お。給。妙。へ。玉。勝。ご。ら。麻。の。中。で。推。す。り。
ふ。と。泣。く。声。が。惜。ま。の。健。こ。を。いと。不。便。あ。の。れ。と。公。よ。ま。く。て。は。と。ひ。え。ま。て。
村。長。を。け。め。御。人。お。に。玉。勝。と。浦。二。町。が。り。み。の。み。の。み。え。船。路。より。ひ。と。と。て。
あ。三。日。風。が。行。遂。再。木。給。妙。松。を。即。俊。平。お。お。り。船。が。解。は。と。御。人。あ。も。
名。流。が。惜。み。て。これ。を。送。且。再。玉。勝。へ。浦。二。町。へ。抱。き。い。浪。が。際。は。と。も。り。出。
は。と。別。の。惜。ま。れ。の。程。に。携。て。泣。け。れ。か。つ。て。船。子。と。も。の。追。風。は。し。と。罵。り。
あ。ひ。碇。が。引。揚。帆。を。立。き。海。原。遠。く。轉。生。せ。り。と。涙。の。玉。勝。も。稚。氣。と。も。
音。な。く。船。を。引。放。され。撲。地。と。倒。れ。て。又。身。が。起。し。浪。の。白。帆。の。波。同。が。れ。お。こ。え。

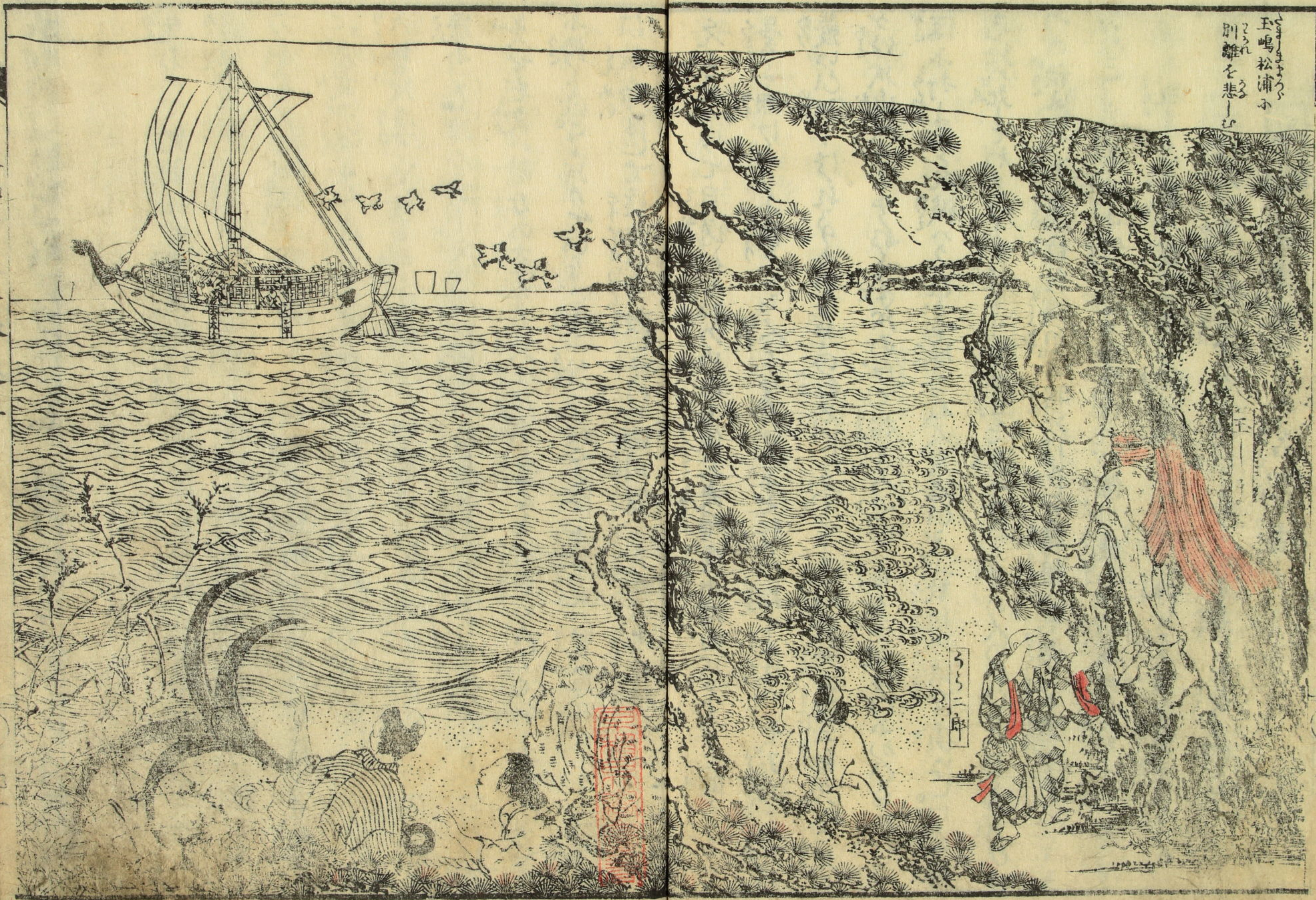
え。と。お。る。ほ。で。目。送。れ。が。船。の。白。帆。も。健。と。夫。婦。逢。ふ。浦。曲。は。え。え。と。て。眼。を。ら。ら。
曇。る。潮。け。つ。り。お。霧。さ。ら。ん。と。な。り。ゆ。き。を。た。り。ひ。殺。て。も。ほ。う。み。て。お。給。と。声。が。
發。い。ひ。お。し。は。れ。る。も。ゆ。り。我。の。船。あ。じ。う。と。よ。と。叫。べ。共。再。浦。二。町。が。又。と。兄。と。
が。泣。が。追。ひ。ま。ち。お。る。ま。は。の。け。て。招。き。う。呼。び。つ。母。と。子。が。ほ。ろ。ふ。か。ひ。る。た。松。浦。
深。ふ。打。よ。と。波。は。う。れ。と。も。帰。ら。ぬ。人。が。思。ひ。ま。ふ。數。行。の。涙。中。の。涙。は。し。り。お。や。悲。
あ。は。れ。死。せ。わ。る。お。今。般。より。生。別。と。悲。あ。ひ。れ。と。昔。の。人。の。い。ひ。え。ん。が。つ。が。お。ひ。と。
つ。の。秋。田。で。若。が。花。散。れ。浦。風。が。招。た。け。し。て。轉。輾。へ。と。御。人。お。憐。れ。で。さ。は。ぐ。と。再。
り。ひ。ら。ら。家。路。小。伴。ひ。ゆ。り。け。り。は。ん。が。瀬。川。健。こ。が。佐。用。媛。の。社。お。祈。因。縁。
遠。小。脱。と。と。粟。が。種。て。の。粟。を。船。に。入。て。て。ね。愛。の。迹。が。今。領。巾。筆。山。の。名。は。し。
あ。ひ。く。お。給。川。の。委。な。れ。と。玉。勝。と。に。遺。し。お。く。し。も。奇。し。と。契。り。に。と。と。

第二

陰陽贈答しと名初て香

玉嶋松浦小
別離を悲しむ

大和言集卷之十一



Red square seal impression with Japanese characters.

Small vertical text label, possibly a signature or publisher's mark.

瀬川健三セガケン道孝ミチタカの妻と子どもに孫倉孫倉に奉じて、時頼入道ときよりの流刑を宥免ゆるのつて、刺新地百貫さしあたひ死に行はくは、御教書ごきょうしょの多おほかり、健けん之の好よく、君恩きみおんの謝あやまり、遂ついに小鎌倉こせまぐらの宿所しゆくじよを管つかさどり、奉ほう以も他た小萃こすいて、誠忠まことちゆうを盡つくさる。あうれ小兒子せうじ松太郎まつたろうの、性極さがらく、伶俐れいれい、年六七ねんろくしちの、幼おとより、教しるに、文武ぶぶの道みちも、ろ、海うみをよせ、一度いちどや、これの、忘れわすれ、父ちちの、これを奇きとして、六藝りくげいの、学まなぶ、を、小弓馬こゆま、劍けん法はうを、い、も、は、く、なり、文学ぶんがく、手て跡あと、その、七なな、十じゆ、歳さいの、詩うたを、賦ふ、文ぶん、の、化け、れ、寔まこと、小居易せうぎ、昔むかし、この、風かぜの、り、あうれ、も、父ちち、これ、賞しょう、笑わらせ、ど、文ぶん、の、餘あま、力ちから、の、事こと、なり、只ただ、士し、は、武藝ぶげい、を、肝かん、要よう、か、れ、と、秘ひ、して、その、才さい、と、人ひと、小語せうご、を、び、ら、り、て、い、ま、ご、世よ、小笑せうせう、ゆ、れ、と、は、夫おとこ、生なま、死し、の、賢けん、愚ぐ、邪や、正ただよ、よ、り、顔かほ、回まわ、は、短命たんめい、母はは、して、盜路とうろ、の、命いのち、長なが、い、れ、が、瀬川健三せがけん、夫おとこ、婦めかけ、の、忠信ちゆうしん、德行とくぎやう、の、守まも、り、て、

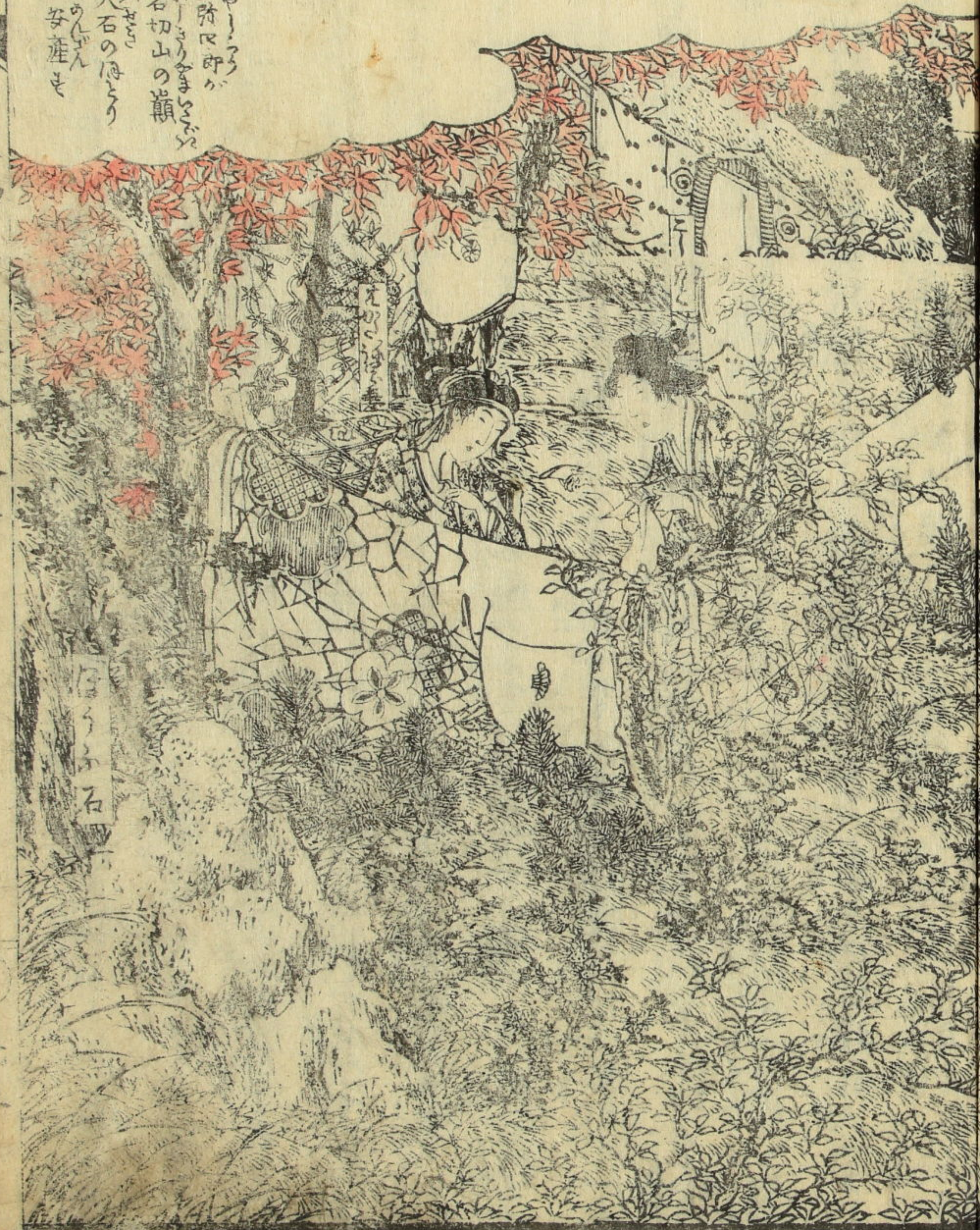
終つひ、に、家いへ、の、自みづか、ら、と、ま、り、も、惜おぼ、し、天あま、と、れ、が、あ、お、壽しゆ、の、授たま、ひ、今いま、茲こゝ、文ぶん、永なが、六む、年ねん、の、秋あき、の、こ、海うみ、の、こ、ら、と、て、打うち、卧を、な、れ、る、茶ちや、餌じ、も、その、験あま、み、え、せ、は、して、夫おとこ、婦めかけ、うち、け、れ、く、世よ、に、去さ、れ、け、れ、ば、松太郎まつたろう、八やち、十じゆ、歳さい、の、時とき、に、孤ひとり、と、り、離わか、れ、る、枝えだ、小こ、離わか、れ、る、ごとく、追悼ついでう、の、涙なみだ、乾かわ、く、同どう、じ、實母じつぼ、玉たま、嶋しま、牙が、浦うら、二に、郎らう、と、い、ふ、の、松まつ、浦うら、の、あり、と、た、び、え、ま、が、う、生なま、死し、定ただよ、り、ね、に、父ちち、の、え、事こと、物もの、の、て、本ほん、終つひ、妙たう、の、ひ、か、う、に、流なが、息いき、じ、て、安やす、否いな、否いな、同どう、ん、と、い、ひ、え、れ、も、大おほ、小こ、割わり、と、一ひと、つ、び、も、音ね、耗へう、せ、と、骨ほね、肉にく、の、を、以も、以も、く、終つひ、り、只ただ、若わか、黨たう、村むら、沢たく、俊しゆん、平へい、の、み、の、終つひ、つ、信しん、じ、く、傳つた、へ、て、後のち、の、の、あ、ま、と、と、町ちやう、嚀あは、れ、り、行ゆ、ひ、ぬ、も、より、光あき、時とき、頼より、入い、道みち、へ、弘ひろ、長なが、三さん、年ねん、十じゆ、月げつ、九く、日にち、に、享たの、年ねん、之の、十じゆ、七しち、歳さい、の、く、逝し、去さ、り、の、時とき、に、嫡男ちやくなん、相あ、摸も、守しゆ、時とき、宗そう、父ふ、祖そ、の、箕ひし、裘じゆ、を、嗣ついで、て、武家ぶけ、の、軌き、植う、たり、と、い、ふ、も、い、は、ご、弱よわ、年ねん、が、終つひ、り、つ、く、恩おん、遇ぐ、瀬川せが、川が、孤ひとり、不ふ、及およ、ぶ、と、終つひ、り、つ、く、松太郎まつたろう、の、年ねん、之の、十じゆ、七しち、歳さい、の、く、逝し、去さ、り、て、け、り、て、近ちか、習しゆ、に、召よ、か、れ、か、べ、と、終つひ、り、つ、く、松太郎まつたろう、の、更さら、り、て、瀬川せが、采さい、女め、

吉次と名告り忠勤父は誦す。いふかも私くしよ武藝な励と文才と嗜み君の爲に命を塵埃に惜ほと古老も既ふその方とあつて當世に雙の壮俊なりと稱しりければ是はさておたはに北條譜代の家臣博多徳太郎素久が從身に慥と云ふ誦す素久といふのありけり。妻が娶て十年におまどいも一子どになりしう夫婦ををらうひびがら。その身嫡家小のらば。婦く後のうみ成てかんともせと。よりて蝶と人ぬれども養子とせばせりけり。あつた小文永二年の冬。おれ夜誦す即ち妻假寐の爰に五衣ふ緋袴とて我女手に一面の鏡を合せて枕方らぐ立在り。これを肥前國松浦縣に住り。そのまは。これ胎内が借りて前世の因果を滅せんとぞおれりといふ。誦す妻愛とく誦す。夫婦この年母子れらる。成敷えたり。いし。い。胎内不宿り多。飲びこれ小ほと。とほと。答はふ。上落らら。息はく。屏風の後ふ入るとおれ。は。あ。なり。い。ふ。必。織。る。れ。ハ。難。て。夫。小。この。み。成。物。が。り。に。誦す。許。す。と。志。し。尋。思。し。彼。女。身。小。鏡。成。り。して。松。浦。乃。りの。う。り。と。す。え。と。れ。ハ。松。浦。依。用。媛。の。神。霊。な。り。人。教。件。の。社。成。鏡。の。宮。と。稱。ある。神。体。ハ。依。用。媛。の。所。持。あり。鏡。成。崇。祀。且。べ。と。豫。て。ある。人。の。物。語。不。て。あ。り。ぬ。こ。さ。や。う。の。い。ふ。と。い。ふ。妻。ハ。は。も。く。怪。ら。ぬ。か。く。て。その。年。の。終。り。より。誦す。即ち。妻。有。身。と。く。夫。婦。と。よ。り。飲。ひ。て。妻。成。毎。月。小。龜。ヶ。谷。の。寺。福。寺。へ。詣。詣。に。安。産。の。加。持。成。受。せ。り。に。次。の。年。九。月。九。日。誦す。ト。妻。と。若。黨。関。峯。七。と。い。ふ。の。と。侍。婢。友。人。成。お。く。例。の。お。く。ま。福。寺。へ。詣。詣。る。か。へ。こ。この。日。重。陽。が。れ。ハ。寺。の。西。南。歸。雲。洞。の。南。が。れ。石。切。山。小。登。り。て。野。菊。の。花。次。摘。ん。と。ん。との。山。の。巔。に。望。夫。石。と。稱。く。人。の。歌。と。れ。石。の。り。ハ。縁。故。と。お。れ。小。住。付。土。御。門。院。の。元。久。二。年。六。月。九。日。重。忠。一。家。讒。者。の。舌。に。係。り。

滅亡小及るると重忠ハ二役川の上小干て流矢中て死と時小秩父六郎
 重保鎌倉あり。すまら討まの兵士と由比濱に血戦と討死と時小重保
 其妻この山小登り。夫の討ま望みして潜然して啼泣し。自害して失りし。
 その屍化して石となれ時の人唐山の望夫石我邦の領中麻毛山の故事小
 擬と。これをも望夫石と名せり。されば小博多海に舟の妻ハ只管負り
 乗して石切山の顛小登り。望夫石のほとりに至ると忽地産の氣けれて
 時刻遠くしとえり。侍見とも大慌忙いせんとて立さら。られと山中
 されば。扶入せん家も形く。すべたやもめさり。若黨衰七うひしく物し
 て。おのく桂の小袖脱し。これ小松の間小引めし。幕とほし。咲みぬる
 菊次折布て袖とし。とかく勅をほら。小に即妻安ん小産と。玉と欺く
 ばり形。女児出生せり。この子壽福寺へ送る。寺より人走し。博多
 小に即かくと出せ。小に即ハ且驚れ且訪ひ。懸て迎の轎とほらして宿所
 へ扶か。し。けれ。小母も子も急なり。て。日以追く。肥立けり。この児重陽の日
 小けれ。あも菊次折布て。袖かえれば。とて秋布と名はら。了。菊の異名次
 秋々くの花と。し。か。あ。れ。下。夫菊と異名多。花あて唐山。此を佳友。壽客
 節花。女華。女節。女聖。更生。陰成。傳延年。笑靨金。日精。周盈。法蔭
 黃花。帝女花。以上。と。い。ふ。おのく。出。処。あり。集。りて。余。國。用。が。事。物。異。名。小。載
 たり。又我邦あてハ菊次。ぼり草。百夜草。星見草。形見草。よつひ草
 らり草。か。い。ち。も。草。あ。じ。草。か。よ。り。花。秋。の。花。を。と。め。花。い。り。て。草
 山。れ。草。長。月。花。草。の。こ。ま。秋。あ。く。の。草。と。い。ふ。か。い。は。せ。の。ら。り。け。て。秋。ま。の。日。花
 とい。外。證。歌。多。し。又。あ。の。菊。次。初。を。葉。霜。入。ら。さ。の。ら。り。草。を。入。る。ま。の
 い。ふ。玉。抄。莫。抄。藻。草。亦。入。る。り。ら。れ。ハ。菊。入。り。て。な。れ。菊。は。し。し。道。小

つひに山小登り。夫の討ま望みして潜然して啼泣し。自害して失りし。
 その屍化して石となれ時の人唐山の望夫石我邦の領中麻毛山の故事小
 擬と。これをも望夫石と名せり。されば小博多海に舟の妻ハ只管負り
 乗して石切山の顛小登り。望夫石のほとりに至ると忽地産の氣けれて
 時刻遠くしとえり。侍見とも大慌忙いせんとて立さら。られと山中
 されば。扶入せん家も形く。すべたやもめさり。若黨衰七うひしく物し
 て。おのく桂の小袖脱し。これ小松の間小引めし。幕とほし。咲みぬる
 菊次折布て袖とし。とかく勅をほら。小に即妻安ん小産と。玉と欺く
 ばり形。女児出生せり。この子壽福寺へ送る。寺より人走し。博多
 小に即かくと出せ。小に即ハ且驚れ且訪ひ。懸て迎の轎とほらして宿所
 へ扶か。し。けれ。小母も子も急なり。て。日以追く。肥立けり。この児重陽の日
 小けれ。あも菊次折布て。袖かえれば。とて秋布と名はら。了。菊の異名次
 秋々くの花と。し。か。あ。れ。下。夫菊と異名多。花あて唐山。此を佳友。壽客
 節花。女華。女節。女聖。更生。陰成。傳延年。笑靨金。日精。周盈。法蔭
 黃花。帝女花。以上。と。い。ふ。おのく。出。処。あり。集。りて。余。國。用。が。事。物。異。名。小。載
 たり。又我邦あてハ菊次。ぼり草。百夜草。星見草。形見草。よつひ草
 らり草。か。い。ち。も。草。あ。じ。草。か。よ。り。花。秋。の。花。を。と。め。花。い。り。て。草
 山。れ。草。長。月。花。草。の。こ。ま。秋。あ。く。の。草。と。い。ふ。か。い。は。せ。の。ら。り。け。て。秋。ま。の。日。花
 とい。外。證。歌。多。し。又。あ。の。菊。次。初。を。葉。霜。入。ら。さ。の。ら。り。草。を。入。る。ま。の
 い。ふ。玉。抄。莫。抄。藻。草。亦。入。る。り。ら。れ。ハ。菊。入。り。て。な。れ。菊。は。し。し。道。小

くさやうしやう
博多防門町が
毒石切山の巔
望夫石の海より
ふて安産せ



望夫石

壽福寺



若菜の七

九十九

女郎 壽客と唱ひ和ふ少女花はさり草と種て相お後う花の操は負
 女のふ小譽されば今博多浦に郎が女見を菊お象りて秋布と名づけしを
 故のりかて浦に郎夫婦の年月の宿望は果さる今との女見は奉まうは
 飲ひあふる限りあり。痛みの花と愛慈し種ふ秋布二二歳小及父て容止
 ほとくさして玉をりく刻成せられたり。さて浦に郎が妻おは日夫小對
 て。女見の面影はこれかきとて。年假寐の夢に。とて上と賜ふよく宵て作り
 とし。浦に郎は。げふりあはれごとく。彼望夫石の母よりほくされこと
 なる。おひのめされば秋布ハ松浦佐用媛の後身おてとらふとて。いふ多
 閑なる守育し。その女見六七歳のころ。書画はよく和漢の書籍と諳
 ぶ。詩歌賦し和ふ。泳中十二二歳お及てハ文章早その佳境入り。く
 謝女小式部お恥さか。に。之教され。織績おみ。よく。戯れに。機を
 立。錦ふと。織出。に。おの。巧を。竭。て。意。に。せ。と。い。と。は。実
 小是稀か。お少女なり。父母ハ。の。形勢。お。て。お。の。に。才。の。長。を。怪。と。し
 短命おやの。んとて。等。の。と。に。お。お。許。さ。秋。布。十五。歳。お。成
 け。お。母。ハ。病。の。積。聚。お。遂。お。と。う。け。り。に。けれ。ば。哀。慕。の。涙。お。れ。か。と
 る。て。詩。歌。ハ。お。の。ほ。う。ら。小。廢。り。けれ。お。お。執。行。時。宗。朝。臣。の。母。公。と。南。殿
 と。し。せ。その。性。風。流。お。に。お。お。を。り。て。才。お。女子。と。進。し。お。お。ふ。ま。れ。ハ。
 秋。布。お。お。及。ひ。ひ。て。父。の。浦。に。郎。お。仰。つ。え。され。内。の。使。を。り。て。頻。お。れ
 ぬ。され。り。時。お。弘。安。二年。五月。五日。秋。布。ハ。母。の。忌。も。さ。の。ふ。果。され。お。父。の
 浦。に。郎。南。殿。の。心。使。お。け。く。大。お。か。と。ほ。り。俄。頃。お。秋。布。が。衣服。を。お。い。給。は。し。精
 添。の。侍。婢。二人。小。譜。代。の。若。堂。お。閑。兼。七。お。先。副。と。南。殿。へ。お。お。し。け。り。お。お。

秋。布。ハ。夥。の。女。中。に。引。と。つ。執。行。の。母。公。お。拜。謁。し。お。お。の。お。体。お。お。れ。節。お。稱。

予。年未給幸れ老女と云ふも及ばれと云ふあり。南殿の目今秋布言行のそ
たれを商して。近く召れらるが年はいくほどと問ふふ。十五歳ふなりけり
ほら。又か何のふ小嗜むと問ふふ。こに引退れり。

和歌の浦ふいづれも紀の國やらはるぐさの女よと云の紫
セリ。世の南殿をけり。側おけり。公のれも公なり。まじ感あ
已らりけり。浩処小老女一人小四方小五把の糒を載されを捧をりて。おん前小
相別。時宗をのり方より。端午の慶賀にして。進ませし。と披ふとれ。南
殿えまひ。時宗の近曾りて。政事に暇なくて。おひの外小疎くおはせ。と
彼人し。健那は。これ小はと並び。猶う。昔浦の而。以。役ひて。此
贈る方り。それこそ。と。ほら。ちかく。は。あふ。彼。糒。小。短冊。と。とれ
たり。打。つ。て。え。ま。は。その。歌。ふ

ちかたやま
はらうとこ 佐か
らながら
こもせめて
くるはさめ

とあり。数回うら。吟じ。大に感る。と。宣の
中。此。ち。ち。ち。入。把。ま。か。つ。ま。さ。り。か
十字。八。句。毎。の。上。下。に。よ。み。入。れ。る。在。五
中。持。の。の。夜。と。つ。な。れ。は。し。と。詠。て。つ。た。の
か。こ。紙。句。の。上。お。ち。れ。と。れ。の。み。字。に。こ。も。

この十字の折句。なれ。は。梅
と。猶。う。あ。る。ま。な。れ。と。え。も。あ。れ。ね。も。述。な。り。日。基。近。方。の。若。殿。系。あ。も。か。く。ほ。で
小。方。小。孫。出。て。入。り。の。り。と。も。あ。る。と。只。それ。と。さ。ら。は。瀬。川。采。女。と。中。人。の。い
もの。和。漢。の。秀。才。な。り。と。さ。る。ひ。げ。れ。が。け。ひ。の。に。く。や。ら。る。ら。ん。と。も。を。結。と。れ。の
か。る。と。頻。小。賞。受。あ。つ。つ。秋。布。方。次。え。ま。い。秋。布。の。今。の。あ。つ。て。と。は。あ
ほ。く。感。吟。し。せ。む。も。又。か。れ。才。子。の。の。り。け。り。と。さ。り。その。と。れ。南。殿。秋。布。の。言。行。

中。相州へはくし秀逸は移されぬ返志は遠恨ふその少女
 乃みぬ小ちよめ把りてとやと。十字紙折句して返すいせしと仰そ
 ねあぞ秋布はふとひくひとて。回辞もはなはまぐく宣つとれぬの
 推辭しとんかかたかおほきとて。ややくに諾ひやせく。應く料紙硯火
 見く。彼がほろりに置し。もへ秋布はほく紫。煩人風情もなぐて。いと書書
 いとおおひけり。とまほしして。又も受乗して。讀らむふその寄小
 と詠たり。これ又らまぬ五把りて。や
 と。十字紙句の上下に置く。歌乃
 と。返明らふ手迹又世おもめて。り
 かの南殿まぐく。吟めて。賞教はじめの寄
 あもは。誠無比に才女ありとて。ま

ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも

ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも
 ちよ孫とも

ま。い。く。え。え。多。ひ。か。ぐ。て。件。の。短。冊。を。又。箱。小。入。り。て。相。州。の。此。方。一。冊。か。ら。し
 ろ。ふ。この。日。時。宗。朝。臣。へ。母。公。を。慰。め。は。い。う。せ。ん。み。る。近。臣。津。川。采。女。吉。次。み。頼。乃
 ぶ。あ。よ。ほ。し。こ。よ。形。だ。遠。送。なり。と。思。ひ。ま。ひ。く。れ。南。殿。う。り。も。返。参。り。て。か。ら
 ぞ。揚。げ。は。れ。詠。ぎ。り。形。れ。へ。大。に。感。か。め。つ。て。母。も。ん。よ。と。て。吉。次。に。彼。短。冊。見。せ
 ま。へ。吉。次。も。吉。次。巻。て。この。方。に。驚。嘆。も。時。宗。又。宣。ふ。中。り。母。公。お。ま。づ。づ。り。ま
 ども。正。風。好。し。て。か。つ。れ。滑。替。は。よう。ま。い。と。と。え。ね。不。手。迹。又。自。筆。に。あ。れ。い
 且。その。筆。勢。光。明。皇。后。の。風。の。り。何。の。う。つ。か。母。お。代。な。り。て。この。方。に。詠。ぎ。り
 い。と。不。審。を。め。れ。る。ま。づ。れ。面。の。り。同。ま。し。と。宣。ひ。この。日。の。制。度。を。は。果
 て。曠。昏。不。及。び。博。多。に。即。素。延。津。川。采。女。吉。次。の。み。次。お。り。南。殿。小。を。あ。り。ま
 は。母。公。か。つ。て。對。面。の。り。津。川。へ。主。の。太。刀。持。と。博。多。と。共。小。廊。の。ほ。ろ。り。に。候。じ
 存。あ。く。改。を。低。なり。け。れ。その。と。時。宗。朝。臣。は。端。午。の。慶。賀。を。速。く。あ。り。し。て。後

六口言草卷之二

ナ

宣つ中。嚮ふまうりなれ返る。是ふ電く。おほえく。これ。山白筆。たうたふ
 うつて。疑ひあり。何人およはし。あひとれ。同多。南殿。微笑。大。違ふ。博多。延。即
 そん中。彼。方。延。延。方。は。彼。知。る。男。が。む。り。女。見。お。秋。布。と。呼。ぶ。り。の。なり。あ。の
 の。和。漢。の。才。女。を。錦。と。い。ふ。よ。く。織。と。せ。られ。い。ひ。あ。ひ。は。して。試。に。人。の。ほ。う
 と。こ。こ。為。虚。言。あ。の。い。は。り。し。と。て。じ。め。詠。り。し。大。和。言。草。の。あ。ひ。す。え。ま。じ。ま。あ
 時。宗。朝。臣。す。く。甘。吟。あ。り。て。彼。秋。布。と。申。ん。が。や。退。出。の。ひ。う。面。の。り。さ。ま。や
 ろ。こ。こ。で。宣。へ。の。南。殿。答。を。彼。る。ほ。次。の。間。お。け。り。そ。く。秋。布。と。言。せ。と。宣。ふ
 ふ。女。中。の。い。ふ。と。い。ふ。や。う。で。お。も。り。し。く。時。宗。朝。臣。の。秋。布。を。入。り。あ。り。て。標。致
 又。世。不。比。が。く。の。い。ひ。は。は。風。流。中。に。て。あ。く。と。れ。儀。不。缺。と。れ。と。あ。り。ま。れ。が
 ゆ。も。く。賞。長。の。り。と。近。く。め。は。嚮。の。返。り。延。電。お。ほ。と。は。し。を。せ。え。ま。り。の。父。の
 延。即。は。い。ふ。も。う。り。秋。布。の。面。目。お。わ。り。て。そ。え。え。たり。は。あ。の。こ。こ。

執権の氣色。よ。れ。を。と。ん。く。南。殿。あ。く。飲。ひ。多。ひ。耐。宗。朝。臣。は。宣。ふ。や。相。別。より
 贈。られ。た。か。も。別。小。詠。人。の。れ。は。ま。じ。多。と。宣。へ。時。宗。朝。臣。遠。小。湊。川。采。女
 成。指。あ。く。件。の。あ。り。彼。壯。俊。が。詠。る。之。は。し。食。及。く。あ。や。渠。の。湊。川。采。女。吉。次。
 い。ふ。の。な。れ。稚。と。耐。小。父。母。を。喪。ふ。と。い。ふ。も。天。才。也。て。文。武。の。道。小。じ。く。當。時
 の。諸。名。家。あ。も。そ。く。恥。れ。と。は。秋。布。と。い。ひ。吉。次。と。い。ひ。時。宗。執。政。の。世。小。湊。川。
 か。れ。秀。才。の。あ。り。太平。の。禎。祥。小。こ。と。と。宣。へ。の。南。殿。あ。り。形。う。と。違。ふ。これ。が
 祝。博。多。弥。に。即。を。追。く。居。て。宣。ひ。た。れ。の。良。馬。の。伯。樂。不。遇。と。佳。人。才。子。小
 因。が。に。し。秋。布。と。言。次。と。は。年。庚。も。よ。う。た。夫。婦。の。い。や。こ。の。公。が。ち。て。い。ひ。あ。り
 の。ふ。ら。ど。親。の。こ。ろ。あ。り。あ。く。と。あ。り。と。あ。え。あ。あ。吉。次。を。秋。布。も。既。か。の。才
 を。あ。り。今。又。ち。ち。て。面。の。あ。り。て。送。小。捐。が。れ。あ。ひ。の。れ。小。南。殿。か。く。宣。と。れ
 ち。忽。地。面。板。中。う。に。な。り。ぬ。そ。の。と。れ。延。即。の。南。殿。あ。り。は。中。僕。子。と。い。者

和歌の贈答
ふとく
せくわき
瀬川秋布
軌権家
賞美
七



せ川うめ

はつふゆ

あま

北條時ひのせ

母公み

ノオ...

ナ...

と只この秋布のこまはのれど女子がれが家を嗣とくもゆふと吉次が父母
は徳行のゆえのつて後されぬ真し。その子又文武の才子かたにのれ
仰がらひ多りていそぐ黙止ゆるを。されど秋布の十五歳ふては、その
期は月少しそやし。今一五年は預めり。かゝるに皆縁をとり締りてしと
あそ南殿ハ吉次をも近く味あふ。秋布も、もに酌をとけし。サグて相列は盃
次勤まひ多り。かて時宗朝臣ハ初更の比及小席を辞し、竹多、澁川、おて
退出りへ秋布も暇を多りて宿所へをゆりたれ。

第三

恥をあらばして、大小辱にほり
五指のかりやくに弾んより。一巻小巻に、澁川、米女、博多、秋布、和漢の才、
長くを執槍、由母子。下りび賞、災めりしより。その名忽地、さく、すえて、近
ゆてもかたれり。その詩、お、需るもの。門前、小市をせしり。と、くれ、せ、も、澁川

采り々、毎日の仕、小暇、しとして。その需に、意せと、秋布へ、推辞に、據るく、
十、ふ一度、ハ脱、と、の、と、筆、と、れる、も、多、り、け、り。と、に、又、北條、家の、角、管
領、長崎、平九、侍、頼綱、が、甥、小荒川、嘉二、郎、武行、と、い、ふ、の、の、り、け、り。その、身
執槍、の、近、方、お、召、使、と、し、と、も、お、よ、か、ら、ぬ、の、の、れ、が、伯父、頼綱、と、れ、ぬ、か
り。因、り、後、終、と、く、よ、せ、け、り。と、時宗、朝臣、も、彼、が、便、侍、を、お、り、ま、は、
折、と、り、て、遠、く、い、ん、と、お、ぼ、せ、と、も、る、月、不、便、を、加、え、と、秋、の、ご、と、く、る、ほ、う、つ、れ、り。
件、の、ま、か、下、ハ、公、さ、は、の、よ、か、ら、ぬ、の、こ、お、り、に、雅、に、耐、お、友、と、し、と、雙陸、の、目、が、手
ひ、廻、の、て、樓、より、落、け、れ、が、過、く、左、の、足、を、折、れ、右、の、眼、が、突、潰、さ、れ、ぬ、と、
遂、一、目、塞、の、醜、郎、と、お、り、ぬ、と、れ、ぬ、も、その、醜、れ、あ、の、羞、を、耐、さ、す、に、多、好、の、
男、と、の、り、か、が、秋布、が、文、色、の、比、が、れ、を、侍、せ、て、ふ、ね、あ、の、か、れ、の、腹、
心、の、草鞋、奴、荒、石、勘、八、と、い、ふ、の、只、一、人、が、得、し、て、博、多、は、即、ち、宿、所、ま、り、

明白に若きして。齋をたし扇をもち出。これ小秋布が持去を需はれ。日主人
源四郎の出仕を家おのり。若黨養七より次いでかきと告げし。秋布はよく
よくみて養七にり。竜川の内管領長盛氏の甥なるは。豫て養七の彼人
らから来るて。かき跡に需らふに。推辞んと。なれなり。そのかきよ。じく
しひにらして。おぼしほさせ。まが方今四五枚の短冊に去りて。その扇を
さし。いかに養七にら。はら果て。赤二郎を客房お請じ。まじくおあま。
が次男のよりて。写めり。且くおん初めれば。しりて。次の男。退れけ。はて
ともほて。とも音もせ。嘉二郎。兼忽の。仕校。うれの。大お倦く。座にほ。或も
蒸。小立りて。函に。或の。細代。天井の。目算。彼此。徘徊。て。その
廊下。小秋布が居室の。ほろに。到。と。それの。紙障の。細。に。し。
と。あり。の。か。と。彼。少女。が。居室。に。と。と。精。と。短。片。足。を。頼。只。使。

眼を斜視して。瞬視れは。秋布は。念も。お。机。の。て。き。か。う。人。形。容。待。宵
に。蜘蛛。詠。じ。な。衣。通。姫。月。の。前。お。源。氏。氏。侍。り。出。せ。紫。式。部。の。も。これ。あ
る。と。よ。ね。お。それ。あ。も。ゆ。て。足。の。す。む。お。さん。と。秋。布。は。人。の。け。ひ。さ。を。お。
い。声。を。も。せ。ぞ。竊。ふ。その。人。と。う。お。眼。ハ。ッ。あ。て。片。足。の。裏。と。それ。ん。龍。川
嘉。二。郎。の。お。じ。の。衣。服。の。紋。を。は。く。推。量。ら。れ。か。か。の。中。に。そ。の。あ。め。の。う。ま
か。憤。驚。か。こ。も。と。と。ひ。と。咳。こ。ら。じ。て。立。ん。と。す。れ。お。り。ら。お。せ。せ。れ。
と。周。章。つ。舊。の。か。へ。立。か。つ。養。七。お。呼。出。して。の。ま。り。に。行。ま。び。の。扇。を。い。か
の。れ。中。う。ん。と。い。な。お。養。七。の。ら。が。せ。と。ひ。て。ぬ。と。ひ。秋。布。が。ほ。ろ。に。行。て。如此。と
あり。と。い。ふ。秋。布。は。嘉。二。郎。が。を。れ。な。れ。を。憎。と。と。ひ。と。それ。と。は。は。に。件。の。扇。を
お。

東路乃多度遇瑞籬名嘗備互愛源詩神乃行惱鴨

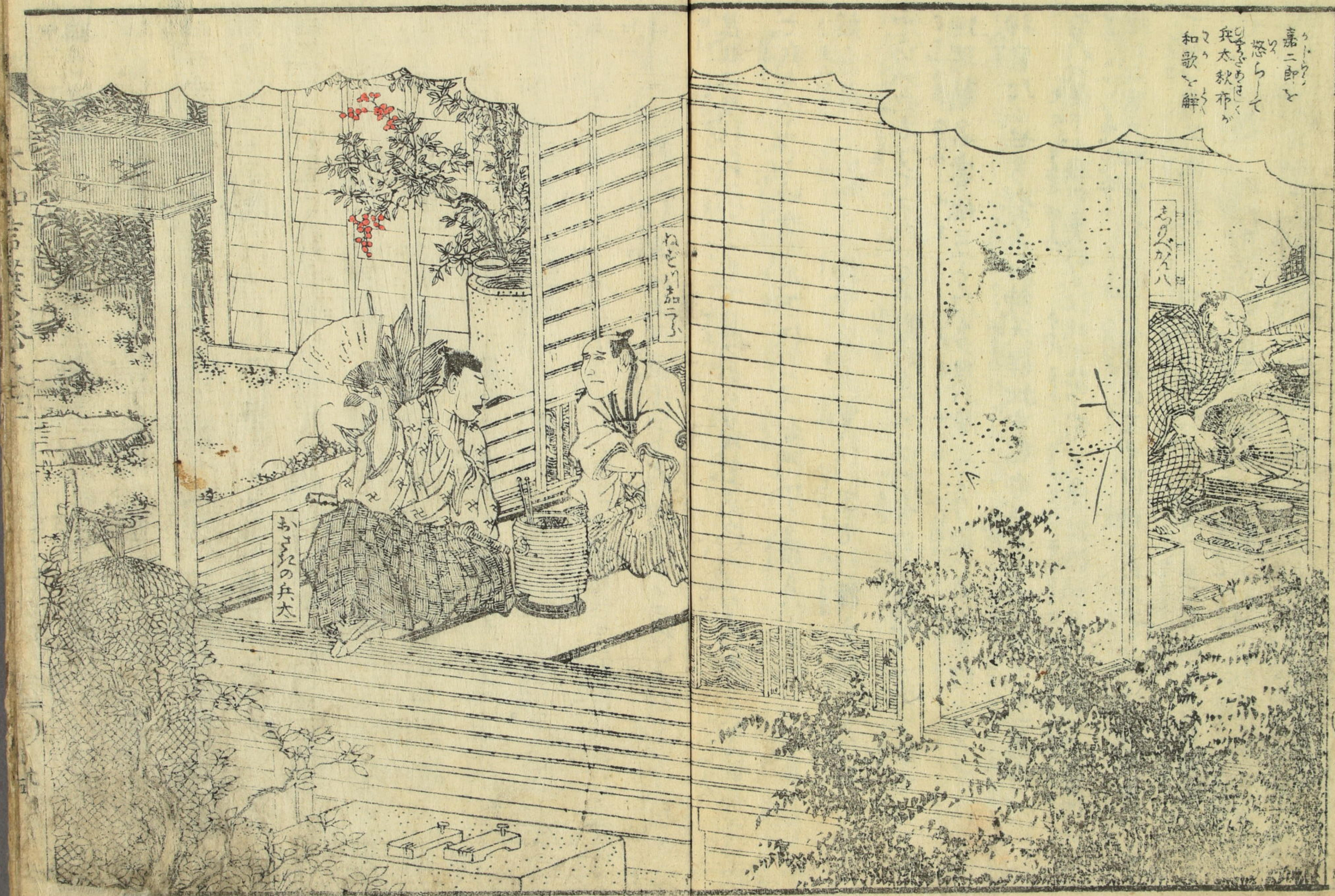
一ノ口

七

之万葉假字マンヤクカクシにて草書ソウショふらふらと書果てらばしけれをシメ養七客房シヤウシチヤクバウに之
 けてシ加カてにニ通ツとせしシ嘉二郎カニロウの扇アウギを能書ノウショのハりて書
 にはニかゝカるル飛トぶブ落ラクるルのノどトもモねネれレババ万葉マンヤクをヲ草書ソウショにテばバけケりリのノいイて
 がガ續ツくクはハるルがガねネんン。えエんンどドかカりリふフ人ニのノ筆ヒトのノ迹アトがガ御教書ミケイショよりモはハきキし
 養七シヤウシチにテ厚コトくク飲ヒびビげゲえエ扇アウギをヲ懐カけケてテ勤ツハハをヲおおてて。かカのノ宿所ヤクショおおゆゆりリぬぬままじじててり
 嘉二郎カニロウのノ毎ヒ日ニにテ件ケンのノ扇アウギをヲ弄ウ賣ウすス。それノよりノ需スぶブはハ秋布アキフがガよりヨリ贈オウすス
 たりリとト詭ウてテ自誇ジコウをヲ備ツるル者モノありリ。ままにニ嘉二郎カニロウがガ隔ヘりリ友トモふフ長城野チヤウシヤウノ
 兵太敦宗ヒヤウタツムネとト呼ヨぶブ。原ハラ是コノ京家キヤウカのノ侍サマああてて將軍サマ惟康親王ヒヤウカウシヤウのノ雜色サハシロをヲ
 がガ生ナ學ガク同ドウ也ナリ。いいははれれがガ件ケンのノ扇アウギをヲてて吟ウタ笑ウタエひひ南川ナンケン氏ノのノ形カタどどかかいい忌イじじのノ
 以ヒ細コ尾ビ志シふふふふをヲ同ドウ小コ嘉二郎カニロウもモ又マタ呵カくクとトもモ笑ウタエてテ笑ウタエ入ウチるル。ええんんどどかかいい忌イじじのノ
 じじのノ以ヒ忌イじじとトいいひひもものノ相アヒししとトいいひひてておおんん。ええんんどどかかいい忌イじじのノ女子コノナにニ慕ウラむム。

是非セイヒのノ及キびビれれ所トコロなりナリとトてて鼻ハナのノののりりがガももめめりりつつ。ななららばばななららばば回マ答コタへへるルに
 ぞぞ兵太ヒヤウタのノよよくく吟ウタ笑ウタエてテ足下ソクカにニいいのの音ネがガ何ナニとト續ツきキいいははれれとト同ドウハハ嘉二郎カニロウのノ地
 疑ウタガ念ハシ發ハツてテおおんん侍サマややんん。いいままにニ一字イチジもモひひ續ツくク。ゆゆがガくくはは鮮アヲももじじもも
 ややいいふふ兵太ヒヤウタももてて。ええんんどどかかいい忌イじじのノ相アヒししとトいいひひてておおんん。ええんんどどかかいい忌イじじのノ女子コノナにニ慕ウラむム。東路トウロ乃ノ多度タタ
 逆瑞サカミ籬シ名ナ嘗シヤウ你ニ豆マメとはトはハ多度タタのノ乘ノリ名ナよりヨリ乾カのノ方カタ。三里サンリ詩シのノありリてテ多度タタ太
 神宮カミミヤ乃ノせせりリふフふフふフ神カミ天津テンニ比ヒ古コ禰ニ命ミコト并ナラふフそのノ子コ。天目テンメク一イチ箇コ命ミコト
 らられれのノ足下ソクカのノ眼メのノ隻ヒツがガにニ比ヒてテ笑ウタエふフ。又マタ愛アイ淋レン詩シ神カミ乃ノ行ユク鴨カモとト愛アイ淋レン詩シをヲ
 横洲ヨコヅ西宮ニシミヤ大神宮オホカミミヤ也ナリ。三羊サンヤウ乃ノ同足ドウソクのノ立タちチりリしシ神カミななららばば。又マタ足下ソクカのノ足ソク短ミナ小コ聲コエ
 てテ笑ウタエふフなりナリ。ああららばば人ニのノ速ス小コ讀ヨミむム。中ナカららてテ萬葉假マンヤクカクシをヲりりてテ草書ソウショにニてテ
 せせしシかか。熟ジュクくク煎センれれ多タすス。ああららばば笑ウタエ止トメむムとトいいふフ。審シム小コ解ゲ示シせせしシ嘉二郎カニロウ勃ハツ然ゼンしてテ
 怒氣イカリ心ココロ改カふフ發ハツりリ。件ケンのノ扇アウギをヲ搔カ取トルとトいいふフ。ええんんどどかかいい忌イじじのノ女子コノナにニ慕ウラむム。

嘉二郎と
怒らして
兵太秋布が
和歌と解



おこしの兵太

ねむ川加三

志久八

大分言書巻之

九三

睜で。皓齒を切つて。いふやう。彼畜生何の恨もなれぬ。これを辱し。さういふやうの
いふは。してこの恥を雪入とて。いふやう。高く罵る。兵太志。お押さへて。声は。低
件の小牝些の文才のりとも。これを謀る。いふやう。と陽。おりのに。秋布。座を
言して。俗子。其敷く。のこ。これ。色。詰。同。く。いふ。口。を。究。か。さ。う。いふ。奴。ふ
恥辱。次。等。て。足下。の。み。ふ。冤。復。さん。る。兵太。少。肚。裏。に。の。り。且。怒。忍。び。多
これ。い。こ。う。の。端。近。て。閑。談。い。ふ。よ。う。に。い。ふ。か。う。の。奥。ほ。り。な。る。処。へ。使。ひ。し。謀。を
謀。る。い。ふ。や。う。の。信。だ。ら。て。い。ふ。か。二。郎。を。使。て。少。し。氣。屯。い。知。り。應。て。兵太。其
閑。室。に。誘。引。助。八。を。い。ま。じ。て。酒。散。を。安。排。に。送。ふ。盃。い。ふ。じ。つ。密。談。数。刻。い
及。ひ。り。抑。長。城。野。兵。太。敦。宗。の。些。の。文。才。の。れ。も。元。耳。曲。子。な。れ。の。博。覧。め。う。く
考。れ。こ。う。い。よ。う。せ。き。さ。う。い。ふ。の。才。を。放。て。人。の。短。を。説。お。の。れ。長。た。り。と。誇。る。
嗚。呼。の。白。物。な。れ。が。常。に。人。に。直。下。して。い。ふ。は。と。の。ほ。し。と。お。り。の。これ。は。同。氣

相求の同病相憐み

七五

相求の同病相憐み。荒川嘉二郎と親く交參て。不良の行ひ多かり。けり。いふ
嘉二郎と。次の日出仕と。君。迎。ふ。人。な。れ。折。と。伺。ひ。時。宗。朝。臣。に。す。や。う。実
中。人。博。多。は。即。ち。女。見。秋。布。の。人。の。え。ら。い。ね。古。え。た。詩。言。い。竊。こ。或。は。引。連。し
ま。じ。て。虚。名。の。高。う。せ。ん。と。講。じ。り。の。も。さ。れ。よ。う。や。詠。出。る。言。な。も。古。風。の
近。体。の。り。て。格。調。定。う。な。ら。ば。呪。和。漢。の。古。実。な。ら。ば。香。と。かり。も。また。ま。い。ら。ぬ。と。
さ。う。い。ふ。の。母。子。め。う。く。賞。罰。を。い。ふ。の。傷。痛。し。と。て。密。に。眉。を。舞。う。の。い。と。誠。し
中。に。す。け。れ。は。相。別。け。て。微。笑。多。し。昔。小。式。部。の。色。侍。が。年。十二。の。と。後。に。よ。れ。あ
さ。も。詠。い。ふ。が。人。を。を。癡。く。母。の。和。泉。式。部。小。の。ほ。と。れ。な。う。ん。と。い。ひ。し。や。い。の
か。い。は。い。と。朽。ぞ。い。ひ。い。ふ。の。の。と。は。彼。小。式。部。が。定。頼。卿。小。大。江。山。の。名。が。あ
詠。ひ。な。ら。ぬ。て。人。に。し。め。て。疑。念。を。散。せ。り。と。今。亦。秋。布。が。議。れ。の。の。も。その
類。あ。ら。ん。故。こ。の。ね。じ。と。い。ふ。の。の。議。が。い。ふ。ん。これ。日。来。彼。が。詩。言。い。な。ら。ぬ。小。の

才古人の糟粕に嘗うのふわに於て其の返答などには留意即妙といひて
何ものうかたれるをほらばと問ふ人の嘉二郎畏てその人の言をいひて
論より澄摠とすその人の判者成りしれ和漢の支才ゆりのふ仰て秋布
と問答はしこれを試とせりおのづから分明なりと信じてふせり
相別かして秋布と問答せり人の何人うあつたべうんと宣ふに嘉二郎答
て惟康親王の雜色長城野兵太の和漢の才ゆりそのやあつたべうんと
そのとき時宗朝臣とて嘉二郎おが秋布成りておのひ兵太と謀しめし
てかゝりしこと措ち多し憎ともゆしとおはせしなうら点以て兵太うら
よくあつたべうんといひしりお人時宗とひ畏て彼女子が賞臣に康親王
高し世にいと世の人不辨辨せしれことを安かねは近れおかるは彼
才學成試とてつる誤をちれしこと宣ひし次の日時宗侍郎といふ縁由
母公おゆえりあに南殿とて嘉二郎はうらとて大人あかひうら腹とて
あひこづから判者となりて勝者成り批判をばし但漢土の故実にて別判
者成りしれとてうらとて回答多しふたれし時宗朝臣とてうら建長寺に大竟
禪師おとるぐのよしに仰けりしれ和の故実は南殿とてかゝ判者となりし
をばし漢の故実にて干て禪師批判せしれはしとなりはて問答の日を定られ
俄頃小博多味に即と長城野兵太成りて件の仰りありは四郎と某の日
某の討ふ女見成りて建長寺へあれよ彼寺に干て秋布が才學の試と
つべしとてえりしひねりの為体既小暗がはしとてうらにけり

松浦佐用媛石魂録前上卷終

